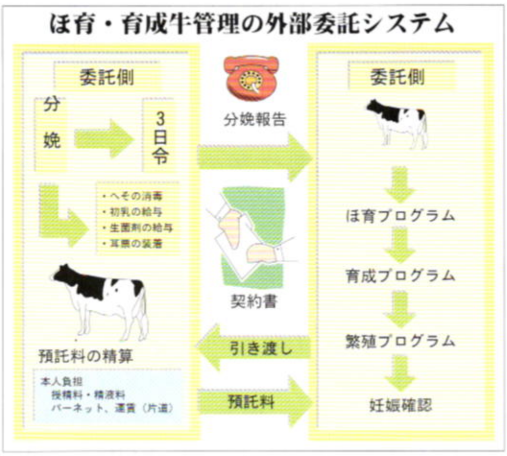
ほ育・育成牛管理の外部委託実績

（平成13年11月30日現在）

- 受け入れ頭数⇒⇒⇒　189頭
- 死亡・廃用頭数⇒⇒　0頭

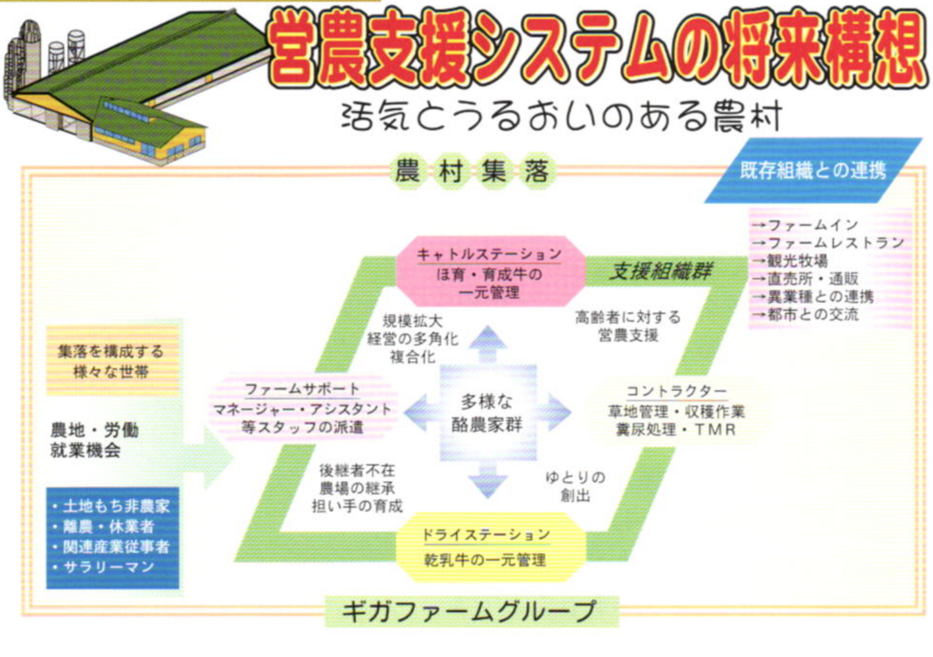


ほ育・育成牛管理の外部委託メリット

- 酪農経営の二次的部門である育成部門を経営から分離することで生じた時間と精神的なゆとりを、生産性向上に集中することができる
- このゆとりを予防的な乳牛の健康管理に向けることにより、疾病や廃用牛の軽減が図られ、経営の改善が期待できる
- 空いた施設を利用して乾乳牛舎や分娩房への転用など、生産性と作業性の向上に大きく貢献できる
- 農作業の外部委託は新しい産業を創造し、地域における就業場所の拡大が期待できる

ギガファームグループの営農支援システム将来構想

ほ育・育成牛の管理を外部委託化したギガファームグループは、今後「誰もが将来、安心して酪農ができる」地域の営農支援システムに発展させる構想をもっています。



作業のマニュアル化

酪農経営の効率化のためには作業のマニュアル化とその伝達方法を確立することが大切です。数多い酪農作業のそれぞれの意味を理解して、その結果を予測しながら、農場内の作業をできる限りマニュアル化してみましょう。

マニュアル化の必要性

酪農は「毎日必ず同じ作業がある。」という大きな特徴があります。このように日常連続性が強い作業は、常に技術を改善するチャンスがあり、日常の酪農作業を基本技術に基づき、農場内でマニュアル化し、作業の意味を理解、結果を予測することで作業効率が上がります。

また、農場内において家族間・労使間で意思統一することにより、通常及び緊急時の作業交代や外部労力の受け入れがスムーズになります。

酪農作業のマニュアル化の長所

①作業の結果や効果に均一性がある
②作業行程の中の重要点を強く意識して作業できる
③外部の労働力を受け入れる体制が取りやすい
④作業に必要な時間や終了時間の予測がつきやすい
⑤その作業に関する問題が発生したときに、原因究明がしやすい
⑥労働安全に効果がある
※作業の意味や結果を理解していないと、その作業をこなすだけに意識が働き、マンネリ化し、作業事故や問題を発生させることがあります

作業のマニュアル化

どの作業でも“ここだけはしっかり”というポイントがあります。

一連の作業工程の中で、重要なポイントが持つ意味を、理解して作業することにより、必然的に予測した好結果が生まれます。

漫然と作業をしたり、早く終わらせたい気持ちで作業すると、短期的あるいは中長期的なスパンで、大きな損失が発生しやすくなります。

効率的に作業を行うために、ポイントをおさえて作業をマニュアル化することが必要です。

また、搾乳機器に代表されるように、作業を自動化した機械が多くなってきています。重要なことはそのシステムが正常に作動しているか否かの点検を日常作業の中に位置づけすることです。

マニュアル化する際のポイント（例：搾乳作業）
①乳頭刺激
・乳頭に付着したゴミを搾乳手袋をした手で落とす
②前搾りと乳汁チェック
・各分房３～５回ずつ、黒のストリップカップに受けてブツなどの有無を確認する
・乳汁の飛沫によって搾乳者の手が汚染されないように注意する
③手袋をした手を殺菌剤で洗う
・清潔なタオルで殺菌液（水分）を拭き取る
・搾乳中は手を頻繁に洗う
④タオルによる清拭
・殺菌剤に浸したタオルを堅く絞る
・１頭１布
⑤乳頭・乳頭孔を丁寧に拭く
・乳頭以外は拭かない
⑥乳頭乾燥
・殺菌液をペーパータオルでよく拭き取って乾燥させる
・拭いた後、乳頭は触らない
⑦ライナー装着

（H12 営農改善資料より抜粋）